

自然の食材で元気な子どもに

唐津で講演

本物の食生活訴え

ジャーナリスト金丸さん



「学校給食にもっと地元産の食材を」と訴える金丸さん

唐津市出身の食環境ジャーナリスト、金丸弘美さん(51)が16日、同市神田のすみれ幼稚園で、「スローフードの勧め」と題して講演。「子供たちに

明るい未来を約束するために、本物の食を選ぶ力を身に付けて」と母親たちに訴えた。

金丸さんは、農業を使わない農作物や伝統料理など、全国各地の食文化を守る生産者を中心に取材、著書や雑誌で紹介している。

またスローライフを自ら実践するため、金丸さん一家は01年9月、東京から鹿児島県の徳之島に移住。無農薬で栽培した甘みの深いタンカンや海水からつくる塩、コクのある黒砂糖……。手つかずの自然が残り、昔ながらの多様な食文化が伝わる島での暮らしをエッセイでつづった「ゆるしい(のんびり)島のスローライフ」(学習研究社、1300円)を2月5日に発売する。

16日の講演会では、スローフード運動が始まったイタリアのプラド、チーズの生産者が露店を出し、消費者と直接交流するイベントを紹介。「生産者と消費者の顔が見える関係がスローフードの基本」と説明した。

そうした交流の中から、「食がどこから来て、だれがづくり、本物は何かを学べる」とし、「本物は唐津にもたくさんある。食材をしっかりと吟味し手作りの料理を提供することが、元気な子どもをつくる基本」と強調した。

高校生の時、インスタント食品や清涼飲料水などの取りすぎで、医者から「20歳まで生きられない」と言われた妻が、食生活を見直して本来の体

【山下託史】